

2021年度事業計画



1 コンプライアンスの強化

2020年度
2回のクラウドファンディング、4つの助成事業
2021年度
行政から新しく2つの事業委託を受ける



時代の変化・社会の信頼に応えるコンプライアンスで、交流力と活動力を向上させる1年間。

会計のクラウド化を図り、法人内監査を強化

利益相反防止の推進

コンプライアンス関連諸規定の整備

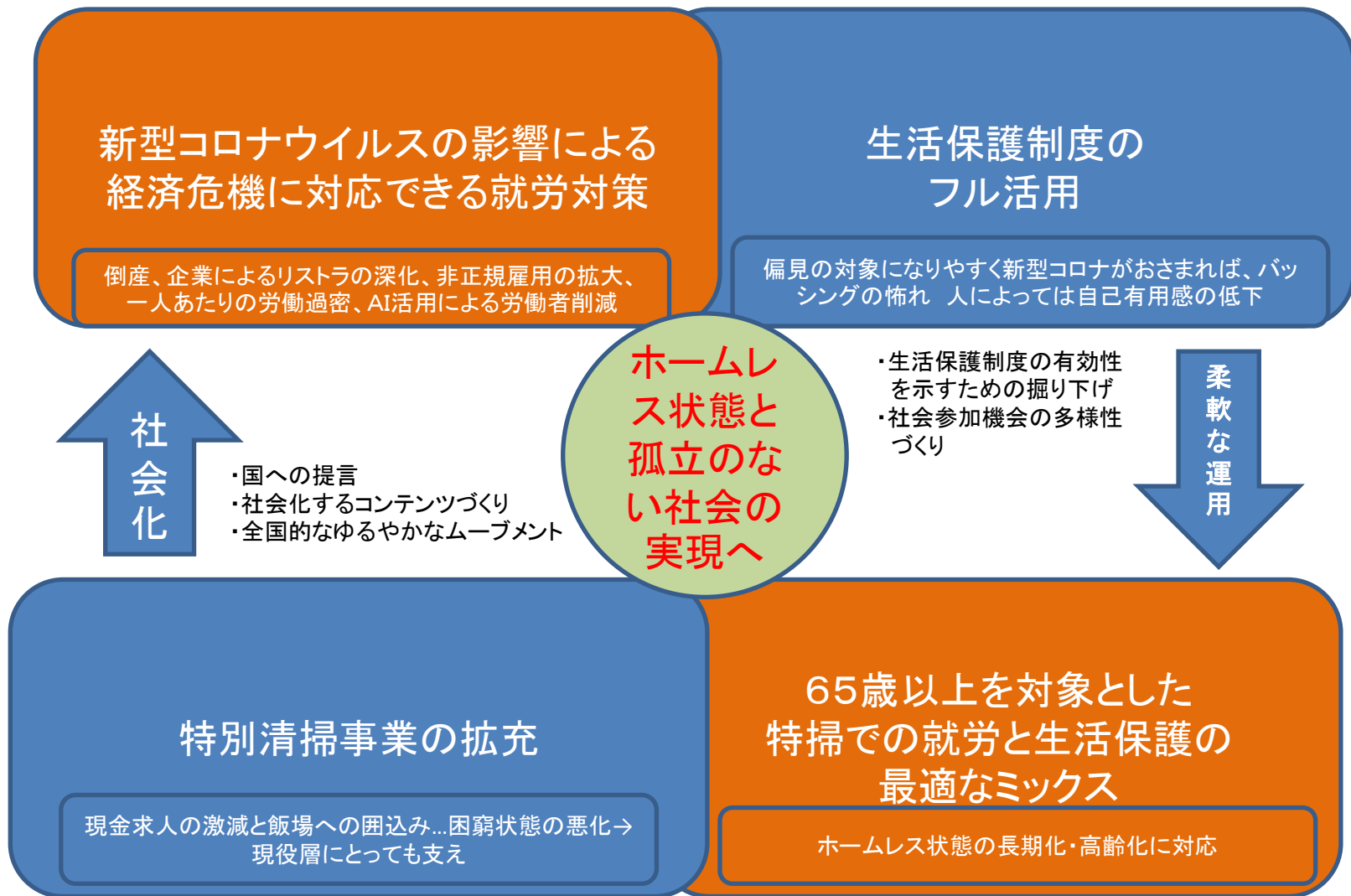
法人内情報共有の強化

法人の理念を共有することを目的として、人権研修・コミュニケーション研修を拡充

目標: コンプライアンスを強化しつつ、認定NPO法人の取得をめざす

2 ベーシックワークの実現をめざします

働く機会は、社会的つながり／居場所の重要なパーツです。

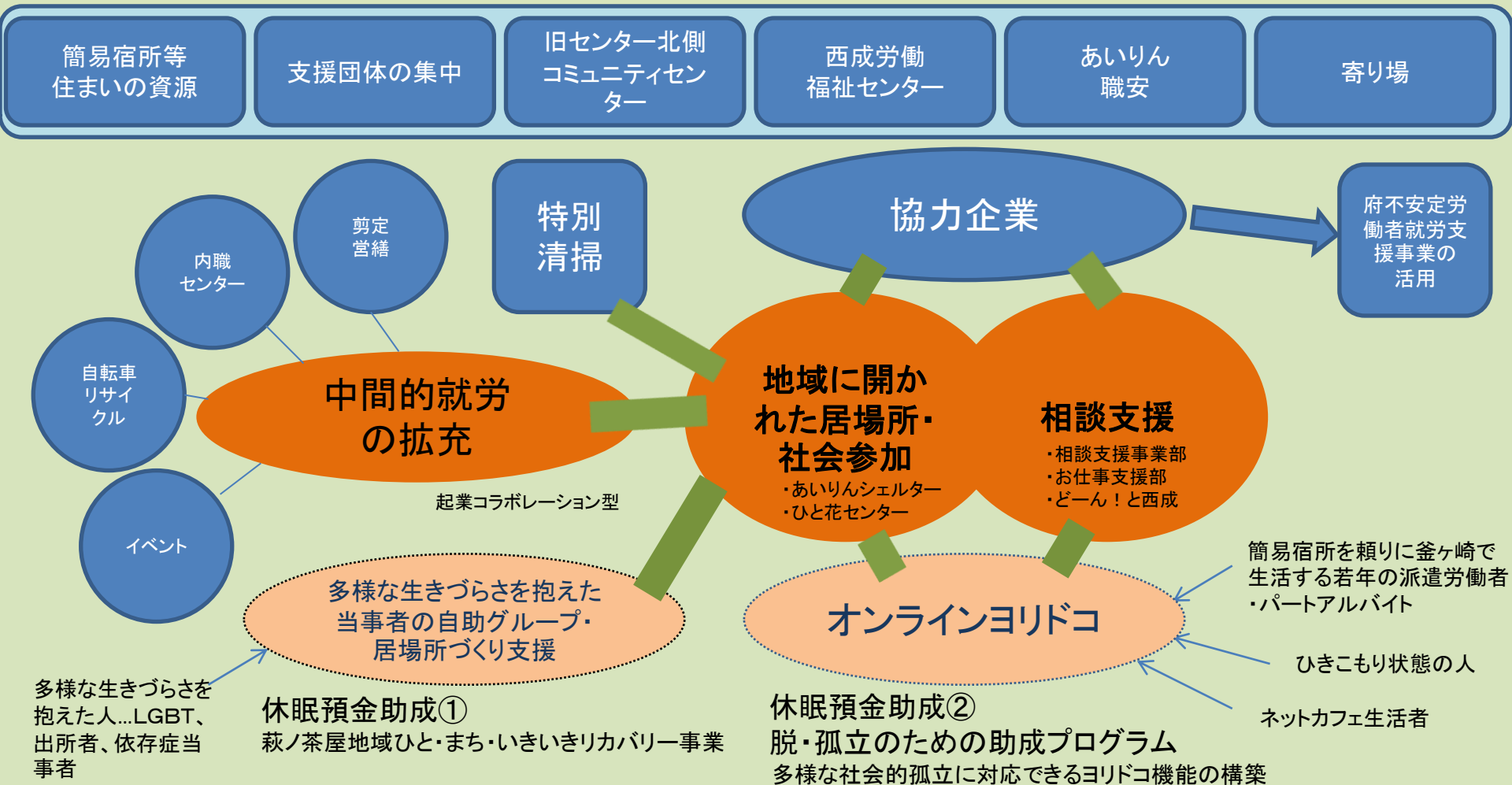


3 不安定労働・居住、ホームレス状態、多様な困難を持つ方のヨリドコロを作ります。

2025年大阪ホームレス就業支援センターの移転予定→新労働施設へ

「釜ヶ崎＝サービスハブ」の深化をめざし、ワンストップサービスの基礎を強化します。

釜ヶ崎＝サービスハブ



4 新型コロナ・ウイルスの経済への影響で仕事・住まいを失う方を支えます。

住まいとくらし緊急サポートプロジェクトOSAKA

大阪のホームレス支援22団体との幅広い連携

クラウドファンディングで、支援者数522人目標金額の124%、7,153,480円を達成。

今後のご寄付をすべて使うまで、緊急相談を継続すると共に、東京アンブレラ基金に学びつつ、多様な支援団体が緊急宿泊に活用できる仕組みとして基金化をめざします。



総合支援付き居住サポート

クラウドファンディングで、支援者数250人、7,170,000円を達成。

緊急宿泊・居宅確保に加えて、総合的な支援が必要な方への居住支援

4ヶ月間の家賃・水光熱費の補助、就労時の交通費食事代の支給など新しい取り組み。

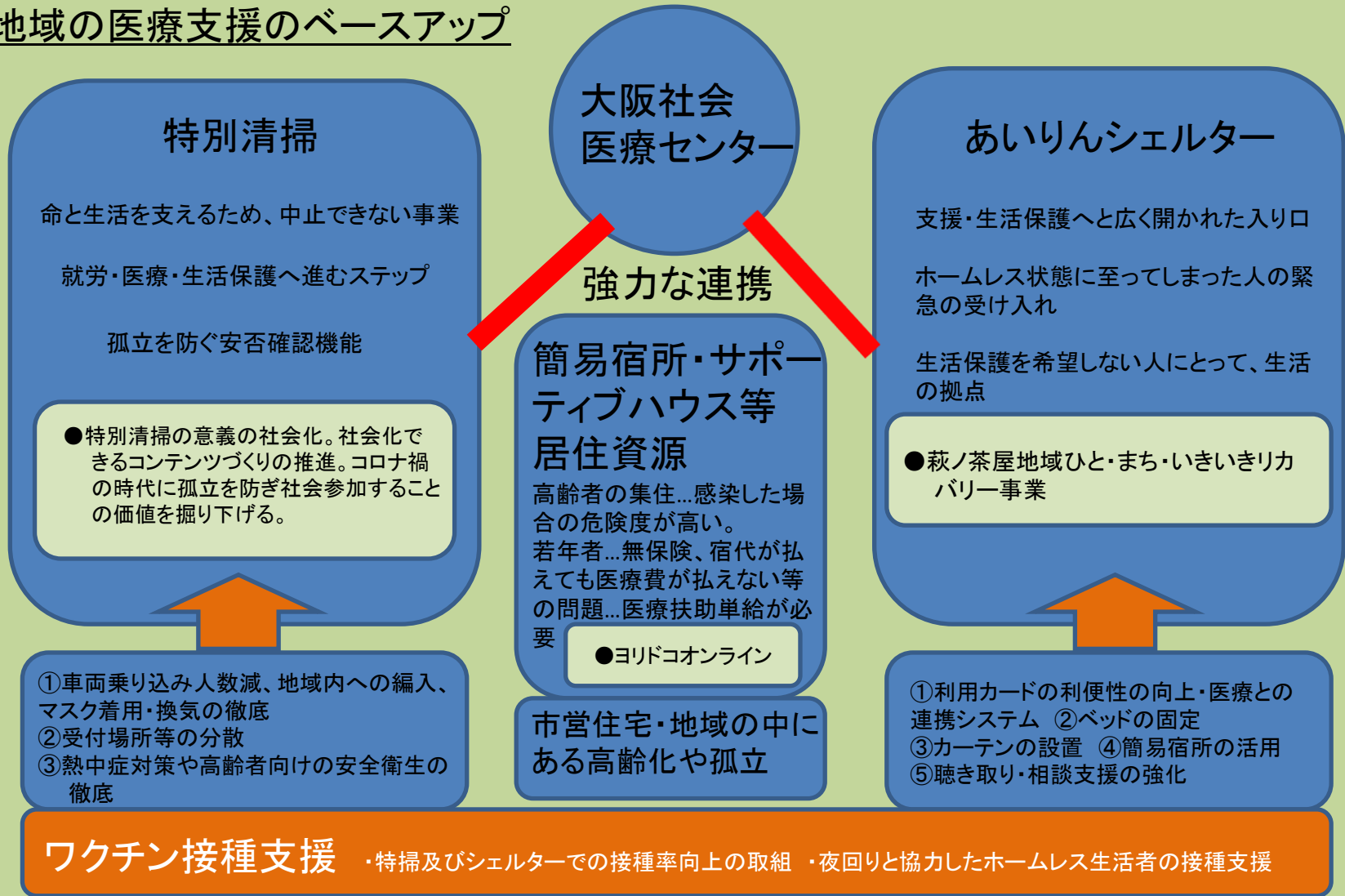
釜ヶ崎周辺でのサブリースで22室を確保。若年の方への就労支援・海外からの移住者への支援の充実。

新しい居住支援モデルにチャレンジするとともに、釜ヶ崎が多様な人々を受け止めることができるまちでありつづけるよう支えます。

5 感染症対策の推進 医療制度への提言 回復力ある地域づくり

新型コロナウイルス対策をバネにホームレス生活者・生活困窮者の医療支援の底上げをめざします。

地域の医療支援のベースアップ



6 仕事づくりを進めます

